

「輝く中堅・中小企業をめざして」ベトナム先行進出企業の貴重な体験特集

去る1月27日に大阪科学技術センターにおいて、恒例のATAC講演会を開催しました。

激しい円高の影響もあって、日本国内の中小企業にとっては、海外進出が生き残りの一つの条件にもなってきました。しかし、中小企業にとっては、海外進出の全体像はなんとなく理解できても、現地でものづくりする場合の「現場的視点からの課題」については、不明な点が多いのが現状と思われます。今回は、脚光を浴びているベトナムへ進出され、当地での長年の豊富なご経験をお持ちの二人の講師をお招きして講演して頂きました。



(株)シード 西岡相談役
『大きな消しゴムを持ちながら』

最初の講演は、(株)シードの相談役の西岡靖博様による「ベトナム進出の経験」でした。シードと云えば消しゴムで有名な会社です。ベトナムへ進出し操業を開始されたのは2003年ですが、ベトナムの良い部分は「社会主義国家で有りながらバランスを重視した合議制で決める政治体制」と「積極的な解放政策」にあると、中国でのご経験と比較しながらのお話は説得力がありました。単一民族で大乗仏教、そして家族の絆を大切にしながら、勤勉によく働く風習は我々日本人と共通した面があり大変馴染み易いようです。ベトナムは中国やタイに近いという地域的な利便性に加えて、ASEANやAFTAを利用した域内自由貿易が可能であることが非常に魅力的で、大いに利用すべきだと熱っぽく話されたのが印象的でした。

<株式会社シード>

創業：1914年
生產品：プラスチック字消し、消しゴム、修正テープ
従業員：国内80名、ベトナム80名

次に、プラスチック製の袋を封止するシーラーのトップメーカー、富士インパルス(株)の山田和邦社長から「富士インパルスベトナムの15年の歩み」という題で講演を頂きました。山田社長は、1984年ベトナム難民をいち早く正社員として採用されていましたが、1994年には彼らの母国を思う気持ちに応えてベトナム富士インパルスを開設されました。以来、彼らは日本とベトナムの架け橋となり、多くの日本企業がベトナム進出するときの水先案内の活動をしています。「ベトナム富士インパルス」は、今では社長以下全員ベトナム人の従業員70余名の企業となっています。こうした20年を超える“日本-ベトナム架け橋的なものづくり経験”を通して、中小企業がベトナムに進出する場合の最適な形態として、事業的に相補完する企業が心を通じ合って、集合して進出することを推奨されています。



富士インパルス(株)山田社長

山田社長は講演で、『中小物づくり企業が100社程度寄り集まる【中小企業ものづくり企業団地】を構築する活動』の構想を紹介されました。その内容は、「250~500㎡のレンタル工場で、移動資金1000万円程度で事業開始が可能で、更に海外で不可欠な通関、税務、通関等のワンストップサービス機能を有した工業団地への進出」です。ベトナム進出を検討中の企業のご参考になったのではないのでしょうか。

<富士インパルス株式会社>

創業：1951年
生產品：各種シーラー、塩ビ溶接機(ホットジェット)
従業員：国内100余名、ベトナム70名

講演後、海外進出に興味を持たれた方々が、お二人を囲んで自由に意見を交換する企画も持ちましたが、講演とは違って「本音の意見」も聞かれて非常に好評でした。

(池田(雅)、三原)